

令和 6 年 11 月 11 日（月）
役場 2 階 2.3.4 会議室
14 時 00 分～16 時 00 分

議題（１）将来のまちづくりを担う人材の育成と発掘について

1. 町内におけるトピックス（ここ数年のまちづくりに関わる活動の例）

【事務局】

- ・ 資料 2 にて説明
- ・ 皿井委員より TACOPA の活動について説明

（質疑）

委員長：移動式プランターをやろうとした経緯と、その時にキーマンとなった人がいたら紹介してほしい。

皿井：まちの交流会たまりで知り合った 24 歳の男性。その方は現在 TACOPA のメンバーになっており、以前長野県で移動式プランターのワークショップに関わったことがあったため、TACOPA の事業でやろうと提案があったことがきっかけ。プランターを木材で作るところからワークショップでおこなったが、メンバーで役割分担しながら実施した。

委員：TACOPA で実施しているプロギングなどの参加者のうち、新規の人とリピーターの割合はどれくらいか。

皿井：体感的には半分くらいは新規の人だと思う。毎回参加する人、数回に一度参加する人など色々。SNS を見て豊明市から来たりなど、遠方からの参加者もいる。いつか行きたいという声も聞くので、長く続けたいと思っている。

委員：今のプレゼン資料はどこかで発表したものなのか。

皿井：武豊町の提案型協働事業での、審査会の資料をベースにしている。

委員：提案型協働事業というものは、武豊町と連携して行うようなものについて、予算をもらって事業を行うイメージか

皿井：概ねそのとおり。協働の相手先が企画政策課であるが、企画政策課の「まちづくりに関わる人を発掘したい」というニーズに対し、TACOPA が各種活動を通じて人材を発掘し、つながりを広げていくという連携の形になっている。

委員：2 点質問したい。

資料にあった、日本福祉大学の講義については、企画政策課が中心になっているのか、それともほかの部署なのか。

もう 1 点は、まちづくりを考える上で、役場内の部署同士が連携して進めていく

ような体制はとれていたりするのか

事務局：日本福祉大の件については、日本福祉大学のゼミ側から企画政策課へ打診があった。内容を一緒に考える中で、みゆき通りの内容について考えることが良いのでは、となったため、産業課を巻き込んで進めた内容になる。企画政策課は中心とまではいかないが、連携する中で役割分担をしている。

もう１点のまちづくりを考え進める上での連携体制だが、駅西グランドデザインの関係で、中央公園南の土地利用について、適宜関係課を交えながら協議をしている。

また、転車台のあたりから役場付近あたりを含めた「散策路整備計画」においては、どのような内容が良いか、などを複数の課が連携しながら議論を深めている。

委員：日本福祉大の案件は、話し合った先がどうなっているのか知りたい。

事務局：ゼミ生が実際現地のイベント等に参加して、状況等を踏まえたうえでの提案をみゆき通り発展会に行ったものになる。提案内容としては道路の拡幅や名鉄とＪＲを結ぶアーケードの設置など、大掛かりなハード整備を含む内容が多くみられた。したがって、すぐには難しいという見解で終わっているような形。

委員長：提案の際に、自分たち（提案者）がどの提案に対しどのようにコミットするか、という視点があるとなおよかったと思う。

事務局：つながるきっかけはできたので、今後どのように関りを継続できるか、仕組みを検討している。

事務局：皿井さんにお聞きしたいが、TACOPAが活動する中で、団体を立ち上げたい等の相談を受けるなど、次の担い手づくりにつながるようなことは何かあったか。

皿井：相談は２件あった。閉店した商店を活用してコミュニティの場を作りたいという内容、マルシェを切り口にまちの活性化に繋がりたいという内容。どちらも提案型協働事業の案内などをおこなったり、相談に乗ったりしている。

2. グループワーク

テーマ1：メンバーや参加者が固定化されていないだろうか？

テーマ2：ファシリテーター的存在を増やすには？



テーマ1に関する意見等

【固定化の良い面】

コミュニケーションがとりやすい、意思決定がしやすい、クオリティが維持、比較しやすい、安心感がある、スキルやノウハウが蓄積される 等

【固定化の悪い面】

マンネリ化、考え方が固定されがち、多様な意見が出にくい、古株が幅を利かせる、モチベーション低下、イノベーションの阻害リスク、属人化のリスク、義務感がでる、メンバーの高齢化 等

【固定化を脱却するには】

固定メンバーにおいては、入れ替わり性や役割のローテーション（分担）など
テーマ分野に沿ったメンバー募集（多角化）
多様な人が参加できようような環境（時間、場所等）
新しい人が参加しやすい雰囲気づくり
失敗を許容する雰囲気づくり、入り口を広げる（様々な媒体で発信）、
インセンティブ等、参加のハードル下げる

テーマ2に関する意見等

ファシリテーターを養成する講座やワークショップの実施

子供、小中高生的を絞って、早い段階から巻き込んでいくなど

ファシリテーター養成を前面に出すと効果が薄くなるかもしれない。誰でもファシリテーターとなれるようなチームの作り方、小さい単位でチーム経営できる仕組みができる
とよい

ファシリテーターを決めてやってみて、褒めるなどのフィードバックを

ファシリテーター養成講座で参加者にコンペをしてもらい、予算を付けるなど。講座からアウトプットできる仕組みが必要。

優秀な人材はいるし、探せていないだけ。素質のある人も含めいかに発掘するかが重要
相談や伴走支援の窓口が必要だが、どのような立場の人がやるかが重要

クラウドファンディングなどで予算を確保し、イベント企画をイチから立ち上げるなど
広報誌等で特集記事を定期的に発信し、興味をもってもらう

町のお墨付きがあると活動がしやすいので、活動がしやすくなる仕組みを。

問題提起ワークショップなどで、参加者を募って意見を出して、それを取りまとめる人
を見出す等

その他 今後のスケジュールについて

【事務局】

今年度のたけとよみらい会議は、残り1回予定。

第3回：2月4日（火）10時～12時

次回の会議が任期内最後になる。3月頃に改選を予定している。

【委員長】

皆さんお疲れ様でした。

メンバーの固定化、という問題は多くの組織で起こっており、武豊町だけではなく、あらゆる場所で同様の問題が生じている。固定化を打開する一つの方法として、無作為抽出で案内を送り、参加者にはクオカード等を提供するやり方がある。単に意見を求む、という方法では、なかなか集まらない中で、個別の案内とインセンティブにより、より自分事として捉え、責任感を持った発言や対応をしてくれるケースがある。新たな人を発掘しようとするすると、それなりのコストと手間をかける必要があると思っている。

また、多様な入り口を用意し、ハードルを下げるやり方が効果的かと思う。

子どもは子どもの入り口、お年寄りはお年寄りの入り口を用意するなど、それぞれのタイプに合わせた日時やコンテンツを用意することが、固定化脱却の近道でもあると思う。

以 上